

# 英語コーパスによる規範的語法の検証

## — between vs. among について —

Testing Prescriptive Usages through English Corpora:  
*between vs. among*

佐々木 正彦  
Masahiko SASAKI

In this paper, we will be concerned with two English prepositions, *between* and *among*. These prepositions can take the objects. Prescriptive grammarians say that there should be a condition in number on their objects. Namely, *between* can refer to only two people or things as its object. On the other hand, *among* can refer to only three or more people or things as its object. Although there are some variants of the prescriptive explanation, such a restriction based on the number is believed to be necessary. Against the pragmatic explanations, some prior studies note there are counterexamples of the condition based on the object number of the two prepositions.

The aim of this paper is to test by using an English corpus (BYU-BNC) the prescriptive distinctions and prior studies against the distinctions, and to bring to light the real picture of the two prepositions. This is one of the findings: there exist *among*-examples with the reference to two entities, contrary to the prior studies, whether prescriptive or not.

[キーワード] 規範的説明, 英語コーパス, 英語前置詞

### 1. はじめに

英語の語句の用法について規範的態度は、例えば、比較構文では、「比較の *than* の後は目的格代名詞ではなく、主格代名詞を用いるべきであ

る（例えば、**me** ではなく **I** とすべきである）」などという説明等に見られる態度であり、常に英語の使用の実態を表しているかを見定める必要がある。英語の使用実態を知る手段として、これらの規範的説明が英語の言語使用データである英語コーパス上での検証を通してみるとどうかを調査してみることが有効である。例えばこの比較構文において、英語コーパスで検索してみるとどうなるだろうか。イギリス英語では 10 倍以上の差で、アメリカ英語では 4.5 倍の差で、**than**+目的格代名詞が多く使用されていることがわかる。つまり、イギリス英語でも、アメリカ英語でも、比較構文の **than** に後続する代名詞は、規範的説明によればむしろ避けるべきとされる目的格代名詞のほうが頻度が高く、優勢である。つまり、この比較構文の関する規範的説明は現代英語の使用の事象を反映していないことがわかるのである。

本稿では、このような英語の語句の規範的な説明として、「～の間」を意味する前置詞を取り上げ、英語コーパスを使って検証することにする。対象とする前置詞は、**between** と **among** である。「**between** は 2 つの人またはものについて、**among** は 3 つ以上の人またはものについて使用される」という記述は学校文法を含む規範的説明でよく見られるが、実際の英語の使用ではどのような違いが認められるか。それを英語コーパスの検索を通して、検証するのが本稿の目的である。

## 2. 使用する英語コーパス

本稿で検証のために使用する英語コーパスは、Brigham Young 大学の Mark Davies 教授が構築しているウェブサイトにおいて公開されているオンライン・コーパス BYU-BNC コーパスである。本コーパスは、BNCW コーパス (British National Corpus World Edition) に種々の検索を可能とする情報を付加したコーパスであるが、現代イギリス英語 (1980 年代から 1993 年までに話された、または、書かれた英語) であり、語数は約 1 億語の世界で最も権威のある英語コーパスであると言えるものである。

## 3. 規範的な説明

「～の間」を意味する前置詞についての規範的な説明とは、「**between**

は2つの人またはものについて、**among**は3つ以上の人またはものについて使用される」とし、これら前置詞に数的制限を課す説明である。この種の説明をはじめて述べたのはだれかだが、学校文法などではこの規則はよく耳にする割には、この点がよくわからない。ここでは、かなり古い文献として Johnson (1755)での説明があるとするにとどめたい。<sup>1</sup>

## (1)

*Between is properly used of two, and among of more; but perhaps this accuracy is not always preserved.*

(*Between* is properly used of two, and *among* of more; but perhaps this accuracy is not always preserved.)

Johnson (1755: 239)

現代英語の綴りを括弧で示すが、ここで Johnson は「*between* は2つについて、*among* は3以上について用いるのが正しい」としている。一方で、セミコロン以下では、「しかし、ひょっとすると、この正確さがいつも守られているとは限らない」という但し書きを行っている。ここから、この時代ですでに、この規則から外れる使用があったことがわかる。

最近の文献でも、この種の規範的な記述が見られる。例えば、Turton and Heaton (1996) の記述がそうである。

- (2) Use **among** when you are talking about three or more people or things.

For two people or things, use **between**.

- (3) a. \*The main purpose of the visit is to develop a closer relationship **among the two countries**.  
b. The main purpose of the visit is to develop a closer relationship **between the two countries**.

(Turton and Heaton (1996: 21))

(2)の説明は、「*between* は2人または2つのものに用いられ、一方 *among* は3以上の人とものについて用いる」というまさに規範的説明と言える

ものである。それに従って、(3a,b)の容認可能性の違いは説明される。さらに、彼らは、**between** の項目の箇所で **among** の用法についても触れながら、次のような説明も加えている。

- (4) **Between** is used when there are people or things on either side of someone or something. **Among** (or **amongst**) is used when (at least three) people or things are considered as a group or mass.

この説明では、単なる 2 か 3 以上という条件を超えて、**between** は、人やものが両側にある場合に用いられ、一方、**among** (または、**amongst**) は、少なくとも 3 人や 3 つのものが 1 つのグループやかたまりとしてみなされている場合に用いられるとされる。

- (5) a. \* **Between all the magazines on the shelves**, only one was of any interest. (書棚の雑誌すべて: 通例 3 冊以上と解釈される)  
 b. **Among all the magazines on the shelves**, only one was of any interest.
- (6) a. \* He wandered silently **between the passengers on the boat**. (ボートに乗客が多くいる。両側にわかれていることとも考えにくい)  
 b. He wandered silently **among the passengers on the boat**. (ボートにまとまっていた乗客の中をさまよい歩いた)
- (7) The ball went straight **between the goalkeeper's legs**. (脚と脚の間)
- (8) The teacher walked up and down **between the rows of desks**. (机間巡視した)
- (9) Give me a number **between 4 and 14**. (4 と 14 の間の数字)
- (10) I eventually found the photograph **among a pile of old letters**. (古い手紙の山に紛れ込んでいた写真)
- (Turton and Heaton (1996:51))

以上述べたとおり、彼らの説明は、Johnson などの単なる 2 つか、3 つ以上という伝統的な数的規範的条件に加え、between は、物理的に 2 つである場合を含めて、2 つのまとまりとして認識できる場合に用いられ、一方、among は、少なくとも 3 つ以上からなるまとまりの中に含まれると認識ができる場合に用いるとしている。従来の数的な規範性を拡大しているものの、状況の認識として between は「2 つ」、among は「3 つ以上」を説明の中心にしている。その点では、Johnson などの伝統的な規範性と軌を一にしていると言える。

#### 4. 規範的説明への批判的な先行研究

between は「2 つ」、among は「3 つ以上」という規範的説明に対し、批判的な立場をとる先行研究についてまとめると次のようになる。

between は「2 つ」に限らない。3 つ以上についても使用できる場合がある。

○地理的・位置的關係 (among と交換できない)

(11) The Mediterranean lies **between Africa, Europe and Asia.**  
(Hill (1968:39))

(12) Switzerland lies **between France, Germany, Austria, Liechtenstein and Italy.** (Partridge (1995:47))

○分配・配分 (among はその目的語が等位接続された場合は許されないとされる) <sup>2</sup>

(13) Mr. Biggs divided his money equally **between (\*among) his 2 sons and 3 daughters.** (Onishi and McVay (1996:153))

(14) The three children divided the cake up **between them.**  
(Lindstromberg (1997: 92))

○合意・同盟

(15) There was an agreement **between the eleven men** not to give up until they had won. (Hill (1968: 41))

(16) An alliance **between four countries** (Hill (1968: note 1))

○選択

(17) It is difficult to choose **between these pictures**, because they

are all very good. (Hill (1968: 41))

○違い・類似性

(18) There is a great similarity **between all his children**. (Hill (1968:41))

(19) What are the main difference **between crows, rooks and jackdaws**? (Swan (1995:95))

○相互的な行為・関係

(20) There will soon be a big quarrel **between those five men**. (Hill (1968:41))

一方, among についても規範的な記述を批判して, among は, 3つ以上を含めて, 1つひとつが明確に意識されずに, 全体としてかたまりとして集合的に捉えられる場合に用いとされる。<sup>3</sup>

○普通名詞複数形を用いて1つのかたまり

(21) It is pleasant to walk **among the trees** in the evening. (Hill (1968:15))

○集合名詞を用いて

(22) He lost his son **among the crowd**. (Hill (1968:15))

○他「分配」として

(23) Our mother was always careful to divide fairly among us children. (Hill (1968:16))<sup>4</sup>

以上の従来の規範的説明に批判的な先行文献では, このように, **between** と **among** の用法を Swan (1995:95)の説明に従い概ね次のようにまとめることができる。

「**between** は2つまたは3つ以上の人やものが明確に区別的である場合に用いられる (two or more clearly separate people or things)。一方, **among** は, 明確に区別的に見ていない人やもののまとまり (a group, a crowd or a mass of people or things which we do not see separately) について用いられる。」

## 5. コーパスによる検証

この節では、規範的説明、そして、規範的説明に批判的な先行研究における説明を含んで、英語コーパスの調査から何が言えるのかについて見ていくことにする。

### ① まず、between と among はどちらが一般的かを見る。

規範的説明でも、それに批判的な先行研究の説明でも、単純なこの問いに答えている先行研究がほとんどないのは不思議である。調査は前述した BYU-BNC コーパスで実施した。検索結果は(24)である。

#### (24) between と among の頻度 (BYU-BNC)

|     | between<br>(all) | among<br>(all) | between<br>(written) | among<br>(written) |
|-----|------------------|----------------|----------------------|--------------------|
| 生起数 | 89,459           | 22,153         | 85,684               | 21,884             |

結果は、BYU-BNC コーパス全体では、between が among の約 4.0 倍の生起数・頻度である。また、書き言葉の比較では、約 3.9 倍である。この種の比較を先行文献で行った例外は、Quirk et al.(1985:680 note [a])である。そこでイギリス英語の書き言葉コーパスである LOB コーパスとアメリカ英語の書き言葉である BROWN コーパスを使用して行われている。どちらも 1961 年に出版された文書データ 100 万語のコーパスである。LOB コーパスでは between : among = 867 : 313, between が約 2.8 倍である。BROWN コーパスでは between : among = 730 : 370 であり between が約 2.0 倍であるとあるとしている。彼らの用いたコーパスは書き言葉であるので、上記の今回の BYU-BNC コーパスでの調査(24)の書き言葉の比率約 3.9 倍と倍率が高まっており、between のほうが among と比べて使用比率が近年増していることが観察された。

### ② between は何人の人・何個のものを目的語にとるか。

ここでの調査は、数の解釈をできるだけ単純にするために、数詞＋目的語の検索を行うことにし、ポイントは、規範的な説明に関わる「2」と「3 以上」である。しかし、検索すれば結果がすぐ出るものではない。

特に調査を困難にする構文は等位接続構文の存在である。例えば、BYU-BNC コーパスの検索サイトで、**between<sub>1</sub>[mc\*]** (between+半角スペース+数詞一般) で検索すると(25)のような文が検索される。これら(25)の例は **between two**~の検索によって抽出される例であるが、これらを区別なく、すべて「**two**~」を直接目的語にとる例としてカウントすることはできない。接続詞 **and** が後続する場合、単純な目的語か等位接続構文かの区別を英文解釈によって行う必要がある。これは実に時間と労力がかかる作業となるが、この作業なしに適切なデータの割り出しは不可能である。

- (25) a. These patients were referred more commonly by surgeons (127 patients) than physicians (27 patients) and had had symptoms for **between two months and six years**. (BYU-BNC: HWS)
- b. Aged **between two and 19**, they all have severe learning difficulties. (BYU-BNC: K4W)
- c. But Sartre's dispensing with all historicist schemas creates the problem of how, **between two autonomous and contradictory totalizations**, there could be 'one dialectical intelligibility of the ongoing process' (BYU-BNC: CTY)
- d. We shall see below that consent may constitute the difference **between<sub>1</sub> the sexual expression of shared love between<sub>2</sub> two people and the serious offence of rape**. (BYU-BNC: ACJ)

(25a)は、例えば、a closer relationship between the two countries (2国間のより親密なる関係)のような **two** で始まる単純な目的語の例ではない。**two months** と **six years** の2つの被接続要素が全体として名詞句になっている等位接続構文と分析すべきである。2つの名詞句が等位接続構文をなして **between** の目的語となった例である(以下、「A+Bパターン」と言う)。(25b)も同様に A+B パターンである。では、次の2例はどうであろうか。(25c)は単独の目的語である。等位接続されている



のは形容詞であり、2つの名詞句が目的語となっているわけではない。また、(25d)の例も英文解釈にゆだねるしかない厄介な例である。**between** が2つあるが、最初の **between1** の目的語は、等位接続構造をしている名詞句である。つまり、第1被接続要素が **the sexual expression of shared love between two people** であり、第2被接続要素が **the serious offence of rape** である。2番目の **between** の目的語は **two people** である。したがって、この例は2人を目的語とする例としてカウントされる。ここで気づくことは、この検索だけで、「**between**+単独の数詞付き目的語」を抽出することができないということであり、検索に頼り過ぎて例文のチェックを怠ってはならないということである。

以上のような作業を、**between**+数詞 **two/2**, **three/3**, **four/4** のすべての検索例に対して施した結果を表にしたのが(26)である。

(26) **between** + 数詞付き目的語の分布 (総数 10,155)

| 検索結果： | 目的語   | 頻度    | %     |
|-------|-------|-------|-------|
|       | A + B | 8,781 | 86.5% |
|       | TWO   | 1,245 | 12.3% |
|       | THREE | 62    | 0.6%  |
|       | FOUR  | 55    | 0.5%  |
|       | .     |       |       |
|       | .     |       |       |
|       | .     |       |       |

この表を見てわかることは、**between**+数詞のパターンでは、規範的な説明に対して批判的な研究者が指摘したとおり、確かに3つ以上の人やものを目的語としてとることができるということである。「3つ」どころか「4つ」でも可能となっているということである。

一方、この **between**+数詞のパターンの調査では、圧倒的に等位接続構文「A+B パターン」が多く、<sup>5</sup> 次に多い **two** と合わせれば両者で **between**+数詞付き名詞句全体の 98.8%を占めているということである。

さて、この **between**+数詞のパターンでなぜ、突出して A+B パターンが多いかについては、例文を見れば明らかなように思われる。(27)の

例を見てみよう。この検索では **between** にすぐ数詞が後続している例となるが、時刻・年などの時間的範囲(27a,b,c)、年齢の範囲(27d)など、**from-to** とともに数値の範囲を表す一般的なパターンであり、このことから頻度が極めて高くなっていると言える。次の(28)の **between+the+数詞** となるパターンで、調査すると A+B パターンの頻度は低くなっているが、数値と数値の範囲指定よりも、形容詞の使用や年代の範囲指定などに限定されるため、頻度が低くなっていると言えよう。

- (27) a. ...and he's coming again Tuesday afternoon now **between two and three**. (BYU-BNC:KDV)  
 b. **Between three and four hours later** they'll arrive at a point about thirty miles from here. (BYU-BNC:HBB)  
 c. Kenneth Graham did come to visit quite a lot **between 1880 and 1910**. (BYU-BNC: K1E)  
 d. There are currently 43 men aged **between 18 and 75**. (BYU-BNC:K4P)

(28) **between+the+数詞**の分布 (総数 3,774) <sup>6</sup>

| 検索結果： 目的語         | 頻度    | %     |
|-------------------|-------|-------|
| A+B パターン          | 85    | 2.6%  |
| between+the+two   | 3,357 | 89.0% |
| between+the+three | 161   | 4.3%  |
| between+the+four  | 49    | 1.3%  |
| between+the+five  | 11    | 0.3%  |
| between+the+six   | 10    | 0.3%  |
| between+the+年代    | 13    | 0.3%  |
| between+the+その他数詞 | 88    | 2.3%  |

- (29) a. Thirteen years, **between the 1971 Census and the 1984 image used**, is a long time ... (BYU-BNC:FP4)  
 b. For the 20 years **between the 1967 war and the start of the intifada there** was coexistence of sorts between Arabs and

Jews, ... (BYU-BNC:A95)

- c. This change was of considerable importance in Brent where many residents arrived **between the 1950s and early 1970s**. (BYU-BNC:B0N)

以上の BYU-BNC コーパスでの調査結果で, **between** について, 規範的な説明, 及び, それに対する批判的な先行研究に関して, 何が言えるかまとめておく。

- (30) BYU-BNC コーパスによる調査で **between** の用法について言えること

- ・規範的な説明に対して：

- 主張に反して, 「3」でもそれ以上の人・ものについて使用可能である。

- 「2」が主張に反して, 「2」に限られるわけではない。

- 主張のとおり, 「2」が多く, また A+B パターンの解釈についても2つのまとまりの重視については確かにそのとおりである。

- ・規範的説明に批判的な先行研究に対して：

- 「2」は依然として頻度が極めて高く, 「2」の **between** の使用を軽視し過ぎである。また等位接続構文の A+B パターンも頻度の高さについても同様である。

- 主張のとおり, より区別的である「3以上」の人・ものについて **between** が使用できるという指摘はそのとおりである。<sup>7</sup>

次に **among** の調査に移る。

- ③ **among** に続く数詞は「3以上」なのか。 **among** に「2」は続かないのか。

- (31) **among**+数詞 (総数 255)

検索結果：目的語の数詞      頻度      %

---

|       |    |      |
|-------|----|------|
| TWO   | 5  | 2.0% |
| THREE | 21 | 8.2% |
| FOUR  | 20 | 7.8% |
| FIVE  | 14 | 5.5% |
| SIX   | 12 | 4.7% |
| SEVEN | 8  | 3.1% |
| EIGHT | 4  | 1.6% |
| NINE  | 7  | 2.7% |
| TEN   | 5  | 2.0% |

---

.

---

(31)の調査結果を見ると、確かに **among+two** はこのパターンの 2.0% に対して、**among+three** 以上は圧倒的な頻度ではあるが、**among+数詞**の規範的説明とは違って、「2」への言及が不可能ではないのも事実である。

加えて、数詞が直接続かない **among+the+数詞**のパターンを調査し、それとの比較をする。(32)の表を見てわかるように、定冠詞なしの **among** とほぼ同じ結果である。**among+two** と同様、**among+the+two** は、規範的な説明でもそれに批判的な先行研究での説明でも、「ない」とみなされたが、英語コーパスでは、このパターンでも頻度は 2.6% と高くはないものの許されないわけではないことがわかる。

(32) **among+数詞** (総数 379)

| 検索結果：目的語の数詞 | 頻度 | %    |
|-------------|----|------|
| TWO         | 10 | 2.6% |
| THREE       | 34 | 9.0% |
| FOUR        | 20 | 5.3% |
| FIVE        | 18 | 4.7% |
| SIX         | 16 | 4.2% |
| SEVEN       | 6  | 1.6% |
| EIGHT       | 11 | 2.9% |
| NINE        | 6  | 1.6% |

TEN 5 1.3%

---

.

どちらのパターンでも（ここでは省略した他のパターンでも）、among は「2つ」の目的語が不可能ではないことがわかったが、3つ以上の人・ものを目的語とする場合でも個々が区別的であると解釈できる場合、between が可能であるのと同じように、通常は区別的な解釈が自然である「2つ」の人・ものであっても、境界が明確でない解釈の場合は、among が可能となると考えられる。この例として、(33)の among の例を挙げることができる。この例では、「2つの民族」（ユダヤ人とパレスチナ人）が among の目的語となっているが、「同じ土地を主張する2つの民族」を2つに明確に区別するというよりは、「入り乱れて狭い土地での混沌とした状態」の解釈が含意されると言えるが among の使用の果たす役割が大きい。この例文は「会話」からの使用例であり、直前の相手の発話も含めてみる必要がある。1つ前の相手の発話を含めた会話を(34)として示す。

(33) Israel is thrilled at the pace of absorption, and accuses the Arab world of manufacturing false conflict and fear; a conflict that is whipping up greater hostility **among two peoples who claim the same land.** (BYU-BNC:KRU)

(34) (SP:KRUPSUNK) There will be a war between the Arabs and Israel; they are a threat to the Arab world. So that's the danger of these people. (SP:PS6CT) Israel is thrilled at the pace of absorption, and accuses the Arab world of manufacturing false conflict and fear; a conflict that is whipping up greater hostility **among two peoples who claim the same land.** <sup>8</sup>

この会話のやりとりでは、直前の話し手が"There will be a war between the Arabs and Israel"と between を用いて「対立」を表に出して状況を述べたのに対して、among を用いて「対立」を表に出さない混

沌とした両勢力の絡み合いを含んで敢えて曖昧に述べたと理解できる。

さらに、次の「2つ」を意味する他の **among** の例を見てみる。(35a)では「その2つの群の間に」を意味する。また、(35b)では、「内視鏡レベルでの再発のない T3N1 腫瘍を持つ2人の患者のうち」を意味する。目的語自体はすでに言及されている特定の区別的な2つであるが、**among** は、区別的な解釈に使用されることもあると言えるだろう。

- (35) a. There was no difference in the drop out rate attributed to lack of efficacy **among the two groups** but drop out because of side effects was slightly more common among patients taking tricyclic antidepressants... (BYU-BNC:FT3)
- b. **Among the two patients with T3N1 tumours without endoscopic recurrence**, metastases appeared **in one** and were responsible for death 10 months later but **in the second** the tumour diminished (T0N1) after chemotherapy and has remained unchanged with successive endoscopic ultrasound examinations.(BYU-BNC:HU4)

## 6. まとめ

本稿で明らかになった事柄について以下まとめる。

### ①【規範的説明及び批判的先行研究で指摘されていない違い】

**between** と **among** において、**between** のほうが一般的な語であり、さらに、書き言葉での比較の結果、**between** のほうが **among** と比べて使用比率が近年増していると言える。

### ②【規範的説明及び批判的先行研究で指摘されていない違い】

**among** は「2つ」の目的語が不可能ではない。

### ③【規範的説明への批判的先行研究で指摘された点の再確認】

**between** は確かに区別的な解釈を持つ3つ以上の人やものを目的語としてとることができる。「3つ」どころか「4つ」でも可能となる。

### ④【規範的説明及び批判的先行研究で指摘されていない違い】

**between** + 数詞のパターンの調査では圧倒的に等位接続構文「A + B

パターン」が多く使用される。

⑤【規範的説明に批判的な先行研究の説明があまり述べていない点】

between は、「2」は依然として頻度が極めて高く、「2」の between の使用を軽視し過ぎである。

以上。

### 注

- 1 他の古い文献としては Brown (1851: 653-4) や Hodgson (1881: 114) があり、それらの文献でも同じような規範的記述がなされている。
- 2 Jespersen (1931: 203)は2つ以上の語が between A and B and C という構文では、区別的でない among は許されないとしている。可能なのは between だけであるとしている。この点に関して英語コーパスによる検証が必要であるが今後の調査にゆだねることにする。
- 3 Hill(1968:15)や Onishi and McVay (1996:153-4)を参照。
- 4 Swan(1955:95)は分配の意味では「単数名詞の接続が伴う場合は between, 複数名詞が伴う場合は, between か among どちらでもいいとしている。  
 (i) He divided his money between his wife, his daughter and his sister.  
 (ii) I shared the food between/among all my friends.  
 なお、本文の例(23)では, between を用いれば all my friends を区別的に個別的なとらえ方をしているのに対して、子どもたちを集合的に大括りで捉えられていると言えよう。
- 5 A+B パターンには、例えば, two/2 以外の数詞でも等位接続構文であれば、含まれることに注意。
- 6 他のパターンの総数は、以下のとおりである。  
 (i) between+指示詞+数詞 489  
 (ii) between+所有代名詞+数詞 83  
 (iii) between+人称代名詞+数詞 29
- 7 「2」は区別的な解釈がしやすい。数が多くなると区別的な解釈がしにくくなり, between にとって必要な区別的な解釈を支える語彙が文に含まれる必要があることが観察される。そのいくつかをよる支えるキーワードが必要になると

言える。紙面の都合上その詳細は省くが、本稿4節で挙げた用法に見られるこれらの区別的解釈を支える語彙(lie, divide equally/up, agreement, alliance, choose, similarity, difference, quarrel)以外に, BYU-BNC コーパス検索から以下のような語彙を挙げることができる。

名詞: discussion, distinction, contrast, split, rivalry, cooperation, divergence, fight, relationship, division, separation, competition, etc.

動詞: distinguish, make a distinction, split, share (out), sort out, rotate, differentiate, decide, etc.

- <sup>8</sup> BYU-BNC では異なった話者を(SP:KRUPSUNK), (SP:PS6CT)として区別していることに注意。

### 参考文献

- Brown, G. (1851) *The Grammar of English Grammars*. New York: Samuel S. & W. Wood.
- Hill, L. A. (1968) *Prepositions and Adverbial Particles*. Oxford: Oxford Univ. Press.
- Hodgson, W. (1881) *Errors in the Use of English*. Edinburgh D. Douglas
- Jespersen, O. (1931) *A Modern English Grammar, Part II*. London: George Allen & Unwin Ltd.
- Johnson, S. (1755) *A Dictionary of the English Language*. London: W. Strahan.
- Lindstromberg, S. (1997) *English Prepositions Explained*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Co.
- Onishi, H. & P. C. McVay (1996) 『ネイティブスピーカーの前置詞』, 研究社出版
- Partridge, E. (1995) *Usage and Abusage: A Guide to Good English*. New York/London: W. W. Norton & Company.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech & J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London/New York: Longman.



Swan, M. (1995) *Practical English Usage, 2nd Edition*. Oxford: Oxford Univ. Press.

Turton, N., & J. Heaton (1996) *Longman Dictionary of Common Errors, 2nd Edition*. London: Pearson.

使用コーパス

BYU-BNC: <https://corpus.byu.edu/bnc/>